羅針盤　vol.103

校長　白岩博明

4月28日（火）～5月12日（火）の放課後を使い、「キャリアウイーク」が実施されました。これは、未来の自分を見つめ直し、新たなステップを踏み出すための貴重な機会として、経験豊かな社会人の方にご講演をいただくという企画です。5月12日（火）には、「ミナガルテン」代表の谷口千春様にご講演いただきました。谷口さんからは「人と暮しのウェルビーイング（良いあり方＝幸せ）」のあり方を中心にお話をいただきました。冒頭、谷口さんが「学校に来て、たくさんの生徒さんが目を見て挨拶をしてくれました。私は受け入れられているんだと安心しました」と、お褒めの言葉をいただきました。その後、生徒は谷口さんのワクワクするお話に聞き入っていました。

5月19日（火）、県総体に出場する生徒の壮行式が行われ、大会での生徒の健闘を祈りました。（右の写真）。

「利他の心を持とう」

ふと心を落ち着けて読書に浸りたいときがあります。そんなとき、手にする本は数多ありますが、その中でも宮沢賢治の作品が多いように思います。かつては時間の経過を忘れるほど読み漁っていた時期がありましたが、今はそのときほどではありません。しかし、ひとたび手にすると、没頭している自分がいます。

賢治の作品で読み返す回数が多いのは、『銀河鉄道の夜』と『グスコーブドリの伝記』の2つ、そして、校長室にも掲げていますが、『雨ニモマケズ』の詩です。ほとんどの賢治の作品の底流には、「利他の心」が存在します。これらにも当然「利他の心」が刻まれているのです。賢治の「利他の心」は、単なる人に親切にし、他者のためにという道徳心ではありません。自分だけの幸福という観点ではなく、他者や自然、生き物全体の幸福の中に自分を置こうとする姿勢として表れているのです。その考えは、仏教（とくに法華経）への信仰、農民への共感、そして、「みんなが幸せであること」を願う思想に結びついています。

『銀河鉄道の夜』は、賢治の世界観や思想などがふんだんに描かれている点で、賢治の代表作であり、不朽の名作と言えます。

主人公ジョバンニが「ほんとうの幸い」を探します。物語の核心にあるのは、この問いです。「ほんとうの幸いは一体なんだろう」。作中で特に象徴的なのが、タイタニック号を思わせる遭難場面です。青年カンパネルラは、自分より他者を助ける行動を取ります。賢治はここで、自分だけが助かる幸福、他人を踏み台にした成功を否定し、誰かのために自分を使うことの中に「ほんとうの幸い」があると描きました。ただし、賢治は直接的な表現ではなく、ジョバンニの苦しみや孤独を通して描いているのです。

この作品は「善人になれ」などという陳腐な言い回しをしていません。「人はどう生きれば、本当に満たされるのか」という問いとして我々は受け止めることになるのです。

『グスコーブドリの伝記』は、幻想的な児童文学ですが、実際には「他者のために生きるとはどういうことか」を深く問いかける作品です。

主人公ブドリは、飢饉や貧困によって家族を失い、過酷な世界を生き抜きます。しかし、ブドリは自分だけの幸福や復讐を求めるのではなく、人々が二度と同じ苦しみを味わわないようにする道を選びます。物語の終盤、冷害によって農民たちが飢えに苦しむとき、ブドリは火山を人工的に噴火させて気候を変え、凶作を防ごうとします。そして、その行為のために、自らの命を犠牲にします。この自己犠牲を肯定するわけではありませんが、賢治の理想的人間像を表しています。

そして、『雨ニモマケズ』。この詩は、賢治の「利他の心」を象徴する作品です。

東ニ病気ノコドモアレバ　行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ　行ッテソノ稲ノ束ヲ負イ

生活の中の他者を気遣う行為が描かれ、賢治が自分を後回しにしていることが表現されています。

ミンナニデクノボートヨバレ
ホメラレモセズ　クニモサレズ
ソウイウモノニワタシハナリタイ

賢治は、仏教で言う「菩薩」（悟りを求めながら、人々を救済するために修行を続ける存在）のイメージを描いたのでしょう。

以上の賢治の作品は、私の中の「利他の心」を醸成してくれます。これまでも、これからも。

学校で私が推奨している「8つのマインドセット」。その4つ目が「利他の心を持とう」です。是非とも生徒には持ち合わせて欲しいと願う心構えです。